

えびす講 (こう)

えびす講は、10月20日と1月20日に各地で行われるお祭りです※。神無月（10月の異称）に神々が集まる出雲に行かない「留守神」とされた、えびす様をおまつりし、一年の無事を感謝し、豊作、大漁、あるいは商売繁盛を願います。

※現在は、月遅れ（行事を1か月遅らせて行うこと）の11月20日に行事を行う地域もあります。

〈栃木県の「えびす講」の例〉

○西宮神社（足利市）

毎年11月19日に宵祭り、翌20日に本祭りが行われます。「えびす」と「ひょっとこ」が釣竿の先に福餅をつけて踊りながら見物人に糸を垂らす神楽が行われます。

○西宮神社（佐野市）

商人の商売繁盛、家内安全を願い、毎年11月19日・20日に行われます。「おたから市」が店を並べ、福引きやのど自慢、露店など夜遅くまで多くの人たちでにぎわっています。

各家庭では、10月20日と1月20日に祭壇へ恵比寿・大黒像をおまつりし、豊作や商売繁盛を願います。その際にけんちん汁やあんころ餅などのごちそうを作り、尾頭付きの魚、財布、小銭、そろばんなどを供える地域もあります。

〈えびす講の説明〉

えびす講は、神無月の留守神のえびす様にご利益をお願いするお祭りです。

全国各地で行われ、「えびす祭り」や「えべっさん」、「十日えびす」とも呼ばれます。

えびす様は、七福神のひとりで、商業・農業・漁業の全てを担当する神様として信仰され、一生懸命働くと、えびす様が福を与えてくれると考えられています。



1月20日えびす講の膳
(平成19年鹿沼市笹原田 県立博物館提供)